

動物園生まれのゾウ 【Zoo-Born Elephants】

http://www.upali.ch/zoo_born_en.html

スイスでは、1900年から2005年の間に、17頭の子ゾウが生まれた。

- 1963年 オス (愛称: **Sahib-Fridolin**) ニーサーカス (母: Ceylon/父: Siam)
- 1965年 メス (**Madura**) ニーサーカス (Java/Siam)
- 1966年 メス (**Ota**) バーゼル動物園 (Idunda/Omari)
- 1984年 メス (**Komali**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 1985年 メス (**Lohimi**) ニーサーカス (Claudy/Maxie)
- 1986年 メス・死産 (**Chhukha**) チューリッヒ動物園 (Chhukha/Maxie)
- 1989年 メス (**Panang**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 1992年 オス (**Boy**) ニーサーカス (Claudy/Maxie)
- 1993年 メス・死産 (**Komali**) チューリッヒ動物園 (Komali/Maxie)
- 1992年 オス (**Pambo**) バーゼル動物園 (Mahari/ Kenny)
- 1994年 オス (**Upali**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 1997年 オス (**Xian**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 1999年 メス (**Sandry**) ニーサーカス (Claudy/Hussein ←ハーゲンベック動物園のオスゾウ・ドイツ・ハンブルグ)
- 2000年 オス (**Aishu**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 2002年 メス (**Chandra**) チューリッヒ動物園 (Indy/Maxie)
- 2005年 メス (**Farha**) チューリッヒ動物園 (Ceyla/Maxie)
- 2005年7月25日 メス (**Fahim**) チューリッヒ動物園 (Indy/Maxie)





もし、我々が 20 世紀の最初の 60 年間を無視すればの話だが、このリストを一見したところでは、非常に見事（感動的）にみえる。すなわち、繁殖に成功する以前ですらも、スイスには数多くのオスゾウが居た。しかしながら、これらのオスゾウたちは、珍しい物として主として展示されていた。そして、繁殖は、ほとんど無視されていた。

そうしているうちに（話が違って）、数頭のオスゾウをスイスで下記のように点在させることに成功した。それらは、ニーサーカスに「Siam」、バーゼル動物園に「Omari」と「Kenny」、そして特に、1981 年にチューリッヒ動物園の新しく建築されたオスゾウ用獣舎に移動した「Maxie」である。

現在、これらの子ゾウたちは、どこで生活しているか？

子ゾウたちが市民に愛されているように、彼らの死を、喜ぶ人は永遠にいない。実際には、生きて産まれた 15 頭の子ゾウのうち、今もなお生存しているのは 7 頭だけである。

最近、生まれた 4 頭の子ゾウたち（Sandry、Chandra、Farha、Fahim）のうち、Sandry は、ラッパースヴィルにあるキンダー動物園のニーこども動物園（ラッパースヴィルは、チューリッヒ南東約 30km の都市）で、その他の 3 頭は、チューリッヒ動物園で、十分な世話をされて、彼らの母ゾウと一緒に暮らし続けている。

3 頭のオスゾウたちは、交配用のオスゾウとなるために、非常に若い年齢で、以下の通りに、他の動物園に移動した。

「**Boy**」は、日本の神戸市立王子動物園で暮らしている。

「**Pambo**」は、ウィーンのシェーンブルン宮殿動物園（オーストリア）で暮らしている。

「**Upali**」は、イギリスのチェスター動物園で暮らしている。

現在、成獣まで生き続けているメスゾウは、ドイツのミュンヘン動物園に居る「**Panang**」だけである。

「**Panang**」は、彼女の妹の「**Komali**」が安楽死された後に、更なる事故を回避するための予防手段として、1995年に「**Panang**」はドイツに移動した。



他の若いゾウたちに何が起きたか？

他の総てのゾウたちは、以下の通りに、それぞれ、若くして死んだか、殺された。

バーゼル動物園に居た「**Ota**」は、攻撃的行動のために、1982年に16歳で殺された。

ニーサーカスに居た「**Madura**」は、悪意のある行動（凶暴な性格）のために、1984年に19歳で安楽死された。リハーサルの中に、「**Madura**」は、自分の正規調教師の1人を攻撃して、彼に致命傷を負わせた。長い間、「**Madura**」は、いつも素晴らしくて信頼できるサーカスのゾウであったけれども、彼女は、「悪い（邪悪な）」ゾウであるという評判を得てしまった。特に、「**Madura**」は、舞台上トラたちと公演していた（写真左下）。

ニーサーカスの「**Lohimi**」は、1988年にヘルペス感染症を患った後、3歳で死亡した。

「**Sahib-Fridolin**」は、彼の反社会的行動と他の行動に関する問題のために、彼を動物園に置いておくことができなかった。

「**Sahib-Fridolin**」は、メスゾウたちと暮らしていくことを決して覚えることはなかった。そういうわけで、彼は、動物園のゾウとしても、交配用のオスゾウとしても落第であった。

「Sahib-Fridolin」は、1984年に、ライプツィヒ動物園（ドイツ）に移動した。そして、1988年に、ベルファスト動物園（北アイルランド）に移動した。さらに、1991年に、彼が最後をむかえるクリケット・セントトマス動物園（イギリス）に移動した。そして、1994年に、そこで、かなり素人くさい方法で殺された。

チューリッヒ動物園に居た「Komali」は、悪意のある行動（凶暴な性格）のために、1995年に11歳で安楽死されなければならなかった。

チューリッヒ動物園の「Xian」は、1999年に、2歳でヘルペス感染症により死亡した。

チューリッヒ動物園の「Aishu」は、2003年に、3歳半でヘルペス感染症により死亡した。



↑ Madura

どれくらいの死産があったか？

チューリッヒ動物園における1986年の「Chhukha」と1993年の「Komali」、および、バーゼル動物園における2004年の「Heri」の計3例の死産があった。

「Chhukha」は、死んで生まれたけれども、その他の点では、健康なメスゾウだった。獣医師が状態を誤診したその時、「Chhukha」は、産道で窒息死した。「Chhukha」は、チューリッヒ動物園で、わずか2番目に誕生した。そして、その時には、メスゾウに対してオキシトシンのような分娩誘起作用を持つ薬剤を使用することは、ほとんど知られていなかった。

その他の死産である「Komali」は、体長約 40cm の 8 カ月の胎仔であった。

死産だった「Heri」の母親は、初回妊娠であった。

ゾウの繁殖とゾウを育てる上での問題はなにか？

上述した事実のリストは、ひどく陰気にさせるものである。さらに、残念ながら、同じ様な状態は、ヨーロッパの至る所で見られる。

2 頭の子ゾウ（「Xian」と「Aishu」）の致死的原因は、ヘルペスウイルス感染症であったことが証明された。しかしながら、最も頻繁に直面する問題（難問）は、思春期あるいは青年期のゾウたちと、ゾウの飼育係たちとが触れ合う（接触する）ことから生じる。

どのようにして、若いオスゾウたちを飼育するか？

安全面の理由のために、若いオスゾウたちは、非常に若い時に、他の動物園に移動させなければならない。残念なことに、若いオスゾウたちのための素晴らしい（十分な）場所を見つけることはますます難しくなっている。すでにオスゾウを所有している動物園は、たいてい、若い交配用のオスゾウのためのいかなる場所も有していない。数頭のオスゾウを飼育できるゾウ舎のために、必要なだけの場所とお金を有している動物園は、極めて希である。

いつか、この大きな難問の解決案を生み出し援助するために、オスゾウたちの飼育を専門とする動物園が出現することを期待している。

どのようにして、若いメスゾウたちを飼育するか？

若いメスゾウたちの何頭かは、彼女たちが生まれた群れの中にたいてい留まる。

我々は、チューリッヒ動物園で、母、祖母と叔母が構成する成獣のゾウの群れを夢見たものである。現在の構造上と場所の状況下では、この夢は、残念ながら、今まで実現されなかった。

どうして、若いゾウは、危険になる可能性があるか？

ゾウたちは、社会的な群れを作って生活するほとんどの哺乳類のように（人間も含む）、自分の出世に関心がある。ほとんどのゾウは、彼らの群れの階層構造（階級組織）をよじ登りたいし、最低でも、彼らが手にしている地位（ポジション）を保とうとする。

これは、やはり、「Komali」に関して本当だった。

全てのゾウ飼育係たちは、Komali（メスゾウ）が生まれた直後や、非常に若い頃には、Komali に殺される運命の調教師と、Komali とが、非常にうまくやっていた（暮らしていた）ことを知っているに違いない。それから、Komali が、とても親しかった数人のゾウの飼育係は動物園を退職した。そして、新しいゾウの飼育係が、彼らの代わりに来た。悲しいことに、（Komali と新しい飼育係たちとの関係は）良い方向に向かわず、状況は悪化した。新しいゾウの飼育係の誰も、Komali の信頼を得る管理ができず、事故（が起こる可能性）は、ますます、現実味を帯びてきていた。

不注意だった瞬間に、Komali は、彼女の元のゾウ調教師に重傷を負わせた。調教師の最後は秘密にされ、調教師は翌朝、安楽死された。

Komali が、動物園から他の場所への辛く苦しい冒険の旅を免れたという事実を除けば（Komali は安楽死されたので）、死亡したゾウ調教師の話は、それだけ多くの他の「悪いゾウ」によって起こった死の実例である。